



戦前、戦中、戦後を生き抜いた101歳

小池地区に暮らす、101歳になる元気な滝川イヌ子さんに出会いました。ふくよかでおおらかなイヌ子さん、交わす会話のテンポも弾みます。

大正10年生まれのイヌ子さんは19歳の時に、20年前に86歳で亡くなった夫の次人さんと結婚しました。次人さんは当時、外務省の中国領事館に勤務しており、イヌ子さんは単身で熊本から夫の勤務地の青島へ渡りました。それから太平洋戦争が勃発。



101歳とは思えないほど元気な滝川さん

青島で生まれた子どもたちを育てながら、夫を支えてきたイヌ子さんは、「あの頃は中国も日本も物がなくて、生活するのに苦しい時代でした」と振り返ります。終戦後の引き揚げでは、次人さんから「もし、何かあったら自刃するように」と言われ、子どもを連れて命がけで帰国したそうです。次人さんは帰国後、熊本県警に赴任。一家で戦後の厳しい時代を乗り越えてきました。「戦前、戦中、戦後と生き抜いてきました。が、今のような平和な世の中に生かされていることに感謝するばかり」と話

すイヌ子さんは現在、長男の尚孜さん(78)と妻の淑子さん(73)との3人暮らしです。「お嫁さんの淑子さんが料理が上手でね。毎日、なんでもおいしくいただいています」と笑顔を見せるイヌ子さんの楽しみは読書で、「とにかく文字にふれるのが楽しみ」と愛読書は数え切れないほど。居間には一昨年の9月に贈られた、イヌ子さんの百歳を祝う賞状が飾られています。賞状には、先頃亡くなった安倍晋三元総理の現職最後の日付と名前が記されていました。イヌ子さんのモットーを聞きました。「くよくよしないこと。モヤモヤしないこと。神様に『おかげさま』と感謝して、人生を楽しむことです」。いくつになってもチャーミングなイヌ子さんは、私たちのお手本です。

散歩の終わりに

小池秋永地区を貫く、通称「小池バイパス」。アクセスがとても便利になりましたが、これまでなじめなかった道に行くのもいいものです。歩いてみなければ気がつかない野菜の無人販売所や、ほっとする昔ながらの景観に出合えます。集落の魅力を教えてくれた皆さんに感謝です。

